令和3年度

富岡小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○基礎・基本を重視し，よくわかる授業を展開する。
○児童の学ぶ意欲を引き出し，自ら考え，主体的に判断・行動できる力を育てる学習指導の充実・改善を図る。
○友達の意見を聞き，自分の考えを的確に伝える力を育成する。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭　1年主任 小笠 広美	委員　校長　近藤 真一　教頭　佐藤 由典　石橋 ゆかり 教諭　教務主任 篠原 敏文　6年主任・国語主任 奥谷 麻里亜　5年主任 三原 泉 4年主任 林 寛子　3年主任・研修主任 助岡洋子　2年主任 森 みどり 算数主任 吉田 優香　生徒指導主任 村田 亘　人権教育主事 横手 隆介

校長

近藤　真一

【小中連携における共通の取組】

児童・生徒の主体的な学びを展開するため，MetaMoji ClassRoom を積極的に活用した授業を実践し，互いに参考となる実践を共有する。

【取組状況の把握について】

管理職や教員相互による授業参観・校内研修での報告・情報交換など様々な機会を捉えて取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

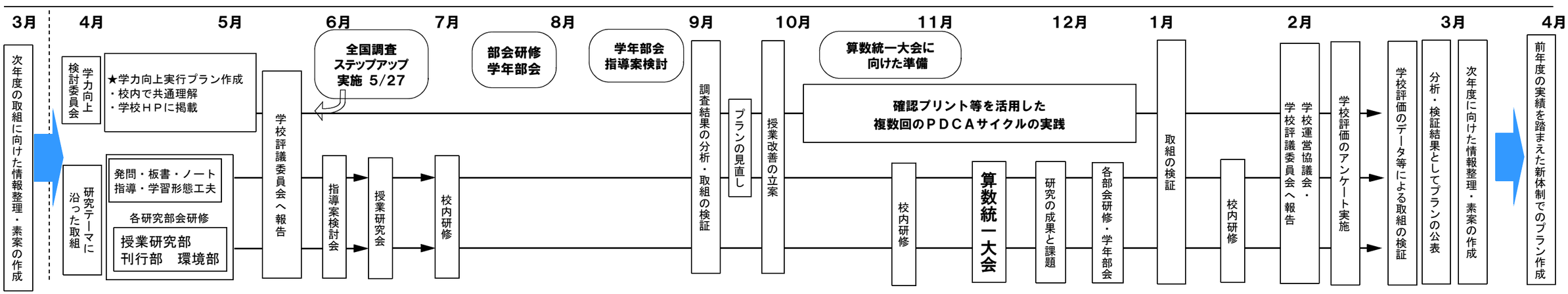
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習のきまりを守り，まじめに課題に取り組む児童が多い。基本的な漢字の読み書き，計算は，ほぼ習得できている。 ●既習内容がほぼ定着している児童とまだ不十分な児童との差が大きく，二極化傾向が見られる。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」を守ることができる。。 ・得た知識や技能を学習や生活に生かすことができる。 ・タブレットを学習の場で活用することができる。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」を徹底し，知識・技能の習熟を図る。 ・発問を工夫し，獲得している知識や技能を生かす場面を設定する。 ・デジタル教科書やタブレットを活用し，主体的な学習の一助とする。 ・個に応じた指導支援の工夫をする。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」を習慣化できるように継続的に指導し，知識・技能の定着を図る。 ・発問や指示を精選し，獲得した知識・技能を生かす授業を展開する。 ・タブレットを適切に活用するために，使用ルールやよさについて確認する。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」が定着してきて，よい学習習慣が身についてきた。 ・発問や指示を明確にし精選したことにより，児童の挙手や発言が増え，習得した知識・技能を生かして学習に取り組めた。 ・タブレットの活用が知識・技能の習得につながった。	・「富小っ子授業のルール 10 の約束」の定着を図るため継続的な指導を心がける。 ・発問や指示を工夫し，個に応じた手立てや対応をすることで知識・技能の確実な習得をめざす。 ・タブレットを活用しながら自主的に学習を進められるようにする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり発表したりでき，それをもとに話し合い，共有することができる。 ●筋道を立てて話したり，友達の意見と比較して考えを述べたりすることは苦手な児童がいる。	・目的に応じて，根拠や理由を明らかにしながら，自分の考えを豊かに表現できる。 ・友達の考えを尊重し，比較しながら，自分の考えを広めたり深めたりできる。 ・対話的な学習の場では，ホワイトボードやタブレットを活用できる。	・少人数グループや学級全体の中で自分の考えを豊かに表現できるように信頼関係に基づく学級づくりをする。 ・考えの進め方や学び合い方についてイメージを可視化できるようにする。 ・タブレットを活用し対話的な学びを拡充する。	・グループや全体で表現する場を設定し，教科の特性を生かしながら，友達の意見を聞く態度を育てる。 ・タブレットや板書を活用して，意見の交流や共有をし，対話的で深い学びの拡充を図る。	・各教科の特性に合わせてタブレットを活用することで，思考力を働かせ，まとめや発表の表現が豊かになった。 ・タブレットを活用して，学習内容に合った交流や共有をし，多様な見方や意見を知る機会につながった。	・思考力・判断力・表現力等を育成するために教材・教具を工夫・開発し，実践することにより深い学びの確立につなげる。 ・自分の考えを発表できる新たな学習形態を模索し，対話的な学びの実現につなげていく。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題に対して興味・関心を持ち，一生懸命に問題解決を図ろうとする。 ●与えられた課題や指示されたことはまじめに取り組むが，自分から課題を見つけ，見通しを持って問題を解決しようとする児童が少ない。	・自ら課題を見つけ，見通しを持ち，主体的に課題解決に取り組むことができる。 ・疑問に思ったことを解決する方法を見つけたり選んだりできる。 ・学習内容を理解し，見方や考え方を働かせて，より深く考えることができる。	・学習活動を見通し，課題を解決し，振り返る PDCA サイクルの実践を図る。 ・多様な意見や考えが出されるような学習課題を設定する。 ・授業の中に，ユニバーサルデザインの視点を取り入れる。	・児童の実態に応じた問題設定や課題提示を工夫し，問題意識・課題意識を明確にしながら，学習に取り組もうとする態度を育てる。 ・全体で学び合うことが可能な課題を児童自らが設定できるよう支援する。	・算数科において学習の流れが定着し，自ら課題を導き出し，粘り強く課題解決に取り組む児童が増えた。 ・問題意識が高まり，最後まで意欲的に学習に取り組む児童が増えてきた。	・算数科で身につけた学習方法を他教科でも生かして学習できるようにする。 ・生活に即した課題設定や単元計画により，学習意欲を引き出していく。 ・自己肯定感を高め，課題に根気強く取り組む態度を育てる。

令和3年度　学力向上ロードマップ